

家庭内ストックごみの大がかりな片付けの実態と心理・行動傾向との関係に関する研究

環境デザイン学科 山川研究室 志水麻里衣

1. 研究の背景と目的

近年、家庭内ストックごみの問題が注目されている。家庭内に不要物が溜まることは日常的な住生活の快適性・安全性を損ねるだけでなく、遺品整理時の負担の問題や「ごみ屋敷」の問題などにつながる事が指摘されている¹⁾。家庭内ストックごみが溜まり片付かない状態から、整理された状態に移行するには日常的な片づけとともに、ある時点でストックごみを整理する大がかりな片付けが必要になると考えられる。

大がかりな片付けに関しては、書籍やメディアなどで事例として取り上げられることは多い²⁾が、全国的な実態についてはほとんど明らかとなっていない³⁾。また収納とライフスタイルとの関係⁴⁾や環境配慮型の片付け・処分⁵⁾・溜め込み⁶⁾の要因などの研究はあるものの、大がかりな片付け後の状況に影響する要因についての研究は見あたらない。しかしながら家庭内ストックごみ問題の解決には大がかりな片付け後、整理された状態を維持することが必要であり、その要因を明らかにすることは重要である。

本研究は、大がかりな片付けの実態について明らかにするとともに、その後の状況と心理・行動傾向等との関係を明らかにすることを目的とする。

本研究では、自分が管理する部屋を対象とし、「大がかりな片付け」を「多くの不要なものを処分して、乱雑な状態から、整理された状態にすること」と定義した。処分には、リユースやリサイクルを含み、複数回ある場合は一番印象に残っているものとした。

2. 研究方法

調査にはインターネット調査(JustSystem社のFastask)を使用した(先着締切方式)。初めにスクリーニング調査を2018年12月5日～12月12日に実施、男女年齢層(20～50歳代)がほぼ均等になるように割り付けた(配信数15,176、回答数2,044)。さらに回答者を大がかりな片付けの経験の有無と整理の状況により3で述べる5グループに分け、各104名を回収目標として性別・年齢層がほぼ均等になるように割り付け、本調査を実施した(配信数744、回収数574、回収率77.2%)。スクリーニング調査では、大がかりな片付けの経験の有無や整理の状況、片付けへの意識と行動、片付けの得意・不得意とその変化などを尋ねた。本調査では心理・行動傾向、節約志向、購買行動特性等を共通で尋ね、加えて大がかりな片付けの経験者にはそのきっかけ・処分方法・片付かなかった理由等を尋ねた。大がかりな片付け後整理さ

れた状態を維持している人にはその後の工夫や心境等も尋ねた。一方、大がかりな片付けの未経験者には普段の処分・片付け方法を尋ねるとともに、片付いていない人には大がかりな片付けをしない理由等についても尋ねた。

3. 大がかりな片付け後の状況ときっかけ

本研究では大がかりな片付けの経験の有無と整理の状況により以下のように5つの片付けタイプに分類した。大がかりな片付けを経験した人を、実施後も整理された状態を維持している人(以下、経験あり・整理)、乱雑な状態と整理された状態を繰り返している人(経験あり・繰返)、乱雑な状態のまま放置している人(経験あり・乱雑)の3グループに、大がかりな片付けを経験していない人を、乱雑な状態になったことがない人(経験なし・整理)と乱雑な状態になったことはあるが大がかりな片付けをしていない人(経験なし・乱雑)の2グループに分けた。各片付けタイプの割合を図1に示す。なお矛盾回答、その他回答は除いて集計している。

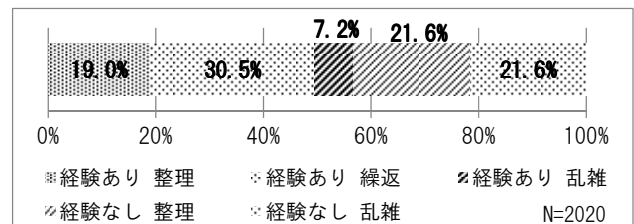


図1 大がかりな片付けの経験の有無と実施後の状況

大がかりな片付けを実施した人は約6割で、実施後の状況として最も多いのは、経験あり・繰返の人で全体の約3割、経験あり・整理の人は約2割、経験あり・乱雑の人は1割弱と示された。

次に大がかりな片付けのきっかけについて、片付けタイプごとの割合を表1に示す。

表1 大がかりな片付けのきっかけ

	片付けタイプ			全体
	整理	繰返	乱雑	
年末の大掃除	44.9%	39.0%	35.0%	40.5%
引っ越し	29.7%	27.1%	23.3%	27.5%
季節の変わり目	10.2%	11.0%	15.5%	11.3%
周りの人から言われた	4.2%	4.2%	16.5%	5.8%
その他	3.4%	9.3%	5.8%	6.9%
片付けに関する情報(雑誌等)	1.7%	3.4%	1.9%	2.6%
生前整理	2.5%	0.8%	1.9%	1.6%
進学	1.7%	1.7%	0.0%	1.5%
結婚	0.8%	2.5%	0.0%	1.7%
就職	0.8%	0.8%	0.0%	0.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※太字は15%以上の値

大がかりな片付けのきっかけは、年末の大掃除と引っ

越しが多く、全体の7割程度を占めている。ただし調査の実施時期が年末年始であったため、「年末の大掃除」と答えた人の割合が多くなっている可能性もある。季節の変わり目による人も1割程度いる。タイプ間の違いを見ると、経験あり・乱雑タイプの「周りの人から言われた」と回答した割合が他と比べて高い。自分の意志による片付けではない場合は、片付け後再び乱雑な状態になってしまう可能性が高いと考えられる。

4. 片付けタイプと心理・行動傾向・片付け行動との関係

整理された状態を維持するために必要と考えられる片付け行動等を6項目抽出し、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階尺度で尋ねた。これらと片付けタイプとのクロス集計を行い、片付けタイプごとに各項目に「当てはまる」と回答した割合を表2に示した。

表2 片付けタイプと片付け行動等の関係

	片付けタイプ				
	経験あり			経験なし	
	整理	繰返	乱雑	整理	乱雑
部屋が乱雑になっている状態を嫌だと思ふ	50.8%	40.7%	32.0%	32.2%	18.8%
自分が管理する物の定位置を決めている	53.4%	26.3%	16.5%	28.8%	12.0%
自分が管理する物の定位置を守っている	48.3%	21.2%	11.7%	24.6%	9.4%
収納の際、ぎゅうぎゅうに詰めがちである	11.0%	21.2%	33.0%	10.2%	19.7%
定期的に物が不要かどうか判断する	28.0%	17.8%	9.7%	11.0%	4.3%
定期的に不要なものを処分している(リユース、リサイクルを含む)	28.8%	16.1%	9.7%	21.2%	6.0%

※数字は、それぞれについて「あてはまる」と回答した人の割合
※最も高いタイプと他のタイプの差が、顕著なものを太字で示した。

この結果から、経験あり・乱雑の人、経験あり・繰返の人は、経験あり・整理の人に比べて、「自分の管理する物の定位置を決めている」、「自分の管理する物の定位置を守っている」という項目について、「当てはまる」と回答した人の割合が顕著に少ないと示された。これより、整理された状態を保つには、物の定位置を決めて守ることが有効であると考えられる。

次に心理・行動傾向(18項目)、儉約志向(8項目)、購買・使用行動特性(4項目)と片付けタイプの関係を検討した。いずれも「とても当てはまる」から「まったく当てはまらない」の5段階尺度で尋ね、片付けタイプとの関係をクロス集計で分析した。その結果、多数の心理・行動傾向、儉約志向との関係が認められた。そこで各タイプの特徴を検討するため、「とても当てはまる」と回答した人の割合が、最も高いタイプと他のタイプと間に5%以上差がある項目を選んで表3に示した。

この結果から、経験あり・乱雑の人は「漠然と先のことが不安になる」、「自分に自信がない」などの傾向にある。経験あり・整理の人は、「自分の意見を明確に持っている」傾向にある。経験あり・整理の人と、経験あり・繰返の人の違いは、どちらも「物を大切にする」傾向にある一方、経験あり・繰返の人は「一般家庭では捨てる

ようなものでも、我が家では現役で使っているものがある」の項目にあるように、物を捨てられない傾向があるのではないかと推測される。

表3 片付けタイプと心理・行動傾向等との関係

心理・行動傾向	片付けタイプ				
	経験あり			経験なし	
	整理	繰返	乱雑	整理	乱雑
物を大切にする方だ	35.6%	29.7%	24.3%	24.6%	15.4%
自分の意見を明確に持っていると感じる	21.2%	13.6%	13.6%	5.9%	3.4%
一般家庭では捨てられるようなものでも、我が家では充分現役で使っているものがある	9.3%	21.2%	10.7%	6.8%	9.4%
親は片付けが得意である	11.9%	20.3%	11.7%	7.6%	6.8%
自分のお金を最大限活かせるように日々自分を律している	7.6%	17.8%	7.8%	6.8%	2.6%
漠然と先のことが不安になる	18.6%	21.2%	32.0%	15.3%	23.9%
自分に自信がない	17.8%	17.8%	30.1%	11.0%	22.2%
物事が途中の状態でも放置することがある	2.5%	7.6%	15.5%	1.7%	10.3%

※数字は「とてもあてはまる」と回答した人の割合

※太字は5タイプの中で最も大きな値

5. 結論

本研究から得られた結論を以下に列挙する。

- 1) 大がかりな片付けの実施割合は約6割で、実施後の状況として最も多いのは整理された状態と乱雑な状態を繰り返す人で全体の約3割、整理された状態を維持している人は約2割、乱雑な状態になったまま放置している人は1割弱と示された。
- 2) 片付けタイプと片付け行動には関係があると示された。大がかりな片付けの経験があり、整理された状態を保っている人は、自分の管理する物の定位置を決めて守っている人の割合がおよそ50%と高くなっていた。
- 3) 大がかりな片付け後の状況と心理・行動傾向には関連があると示された。大がかりな片付けの経験があり、整理された状態を保っている人は、自分の意見を明確に持っている傾向がある一方、乱雑な状態になってそのままである人は漠然と先のことが不安になる、自分に自信がないなどの傾向にある。

【参考文献】

- 1) 山川肇、渡辺浩平、「高齢者のストックごみ—特集にあたって—」, 廃棄物資源循環学会誌 28(3), 168-176, 2017
- 2) 橋本嘉代: 現代社会における「片づけ」という行為の意味—片づけコンサルタント・近藤麻理恵の「人生を変える」片づけ術に注目して—, 筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要 11, pp.67-75, 2016
- 3) 中村久美、今井範子, 「リビングダイニングの住生活における収納の問題」, 日本家政学会誌 53(1), 43-56, 2002
- 4) 玉置了, 「消費によるアイデンティティ形成志向と処分行動の意思決定」, 商経学叢 58(2), 383-397, 2011
- 5) 玉置了, 「参加型処分行動にアイデンティティ形成意識と儉約志向がもたらす影響」, 商経学叢 59(1), 303-320, 2012
- 6) 池内裕美, 「人はなぜモノをため込むのか: ホーディング傾向尺度の作成とアニミズムとの関連性の検討」, 社会心理学研究 30(2), 86-98, 2014